

## 第1回 北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議概要

日 時	平成27年7月28日(火) 15:30~17:00
場 所	市役所本庁舎2階会議室
出席委員	山本一彦委員・麻生昌裕委員・井出真也委員・小野麗子委員・笠井孝一委員 穴戸圭子委員・田辺きよみ委員・丹野司委員・藤山康雄委員・深村真人委員 古澤将委員・宮岡則昭委員・山口隆弘委員
欠席委員	鈴木宏一郎委員・富士原孝浩委員
事務局	中屋企画財政部長・川村企画財政部次長・橋本企画課主査・安井主事
傍聴者	0名
会議次第	1 開会 2 委嘱書の交付 3 市長あいさつ 4 推進会議委員・事務局紹介 5 会長及び副会長の選出 6 会長あいさつ 7 議事 (1) 推進会議の運営について (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて (3) まち・ひと・しごと創生総合戦略(重点戦略)について (4) 次回推進会議の日程 (5) その他 8 閉会

## 1 開会

委員 15 名中 13 名が参加。委員の半数が出席していることにより、会議が成立していることを報告。

## 2 委嘱書の交付

市長より、委員に委嘱状の交付

## 3 市長あいさつ

市長よりあいさつ

## 4 推進会議委員・事務局紹介

各委員、事務局紹介

## 5 会長及び副会長の選出

委員の意見により選出は事務局に一任され、会長に山本氏、副会長に古澤氏が選出され、委員に承認された。

## 6 会長あいさつ

山本会長よりあいさつ

## 7 議事

### (1) 推進会議の運営について

<事務局より資料に沿って説明>

委員から異議等がなく了承された。

### (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて

<事務局より資料に沿って説明>

- ・人口ビジョンは、市の人口の現状と将来推計などを踏まえ、目指すべき将来の方向と展望を定めることとされており、目標年度は平成 52 年、2040 年とする。
- ・策定にあたっては、北広島市総合計画、第 5 次を基本としながら、国が定める 4 つの基本目標を踏まえた計画とする。期間は平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 箇年。
- ・総合戦略の策定体制については、推進会議、市議会、庁内組織の体制となっており、推進会議では、総合戦略の策定に対する意見や提案、効果検証をお願いするものである。

- ・総合戦略策定スケジュールは、4回の推進会議を経て、10月に人口ビジョン及び総合戦略の原案を作成し、翌年1月にパブリックコメント。3月に策定予定。
- ・人口動向分析について資料に基づき説明

#### 【会長】

策定の体制、スケジュール、資料に基づく人口動態について事務局より説明があったが、質問等はないか。

#### 【委員】

<質問、意見等なし>

### (3) まち・ひと・しごと創生総合戦略（重点戦略）について

<事務局より資料に沿って説明>

#### 【会長】

大きく4つのテーマそれぞれに重点戦略と取組みの内容についての説明があった。皆さんお一人ずつお考えを簡単にお願ひする。

#### 【A委員】

- ・重点戦略の方向性としての的を射たものとなっている。ポイントは、いかに実効性を高めるかである。若い世代の定住促進については、高齢者が、一軒家の維持に苦慮しているということであれば住みよい住宅に転居し、一軒家については若い方に賃貸したいというニーズがあれば、家賃保証を付けてその一軒家をリフォームする。空き家対策としては、空き家を取り壊す費用に対するローンを低利にするとか、自治体の補助金があればより低利にするといった商品などがあるので、金融機関の機能をうまく取り込んで実効性のある施策を実施することで、戦略自体が深まるのではないか。

#### 【B委員】

- ・市内5地区では、札幌に近い遠い、商業施設・工業団地・住宅地が有る無いなど、非常に地域差があり、これらをまとめて一つの施策としていくのは難しい。
- ・駅西側付近の土地は市内でも非常に価値の高い場所であり、ここをいかに有効活用するかがポイントである。
- ・輪厚工業団地は順調に売れているので、誘致企業を有効に活用して市内の雇用、定住人口の増加に導けないものか。
- ・観光資源としてもっと農地等（農作物）を活用してはどうか。
- ・空き家対策としては、移住・住みかえ支援機構（JTI）と連携し、高齢者が持ち家を手放さず転居したいという場合に、子育て世代に賃貸をするというJTIのスキームを使うこともできる。

#### 【C委員】

- ・人口減少の歯止めをかけるには若い世代の流入、特に女性をどれだけ取り込むのかというのが一番大事になってくる。子どもを安心して育てられるため産科の誘致など環境を整

備することは非常に大事である。

#### 【D委員】

- ・ 北広島市が道内では一番住みやすいと2年続けてなった（東洋経済新報社：住みよさランキング）。大曲のアウトレットでは毎日観光バスが並び、土日は道路が渋滞するほどの観光地となり、住民が買い物に行けないほどである。
- ・ 地下鉄延伸について、第一に札幌ドームまで地下鉄を持ってくるのが先決問題だが、その後大曲のアウトレットまで将来的に持ってくるというのが一番人を呼び寄せる。
- ・ 大曲工業団地、輪厚工業団地に勤務している方の大部分は、札幌から通勤している。
- ・ 教育では、小中一貫校など魅力ある教育環境の整備に向けた取組みを早く進めていくべきである。

#### 【E委員】

- ・ 西の里地区に関しては20年間みても何も変わっていない。自然は自然として残っているのは素晴らしいが、何か変わるべきこともあるのではないか。

#### 【F委員】

- ・ 子どもを産み育てたい、安心して子育てしたい、老後に安全安心して暮らしたい、という内容が重点戦略の中に取り上げられており安心した。
- ・ 内容がたくさんあるが、どれを優先するのか難しい。優先順位と経費の問題がある。
- ・ 市にお金を落としてもらおう施策はとても大事である。プレミアム付き商品券の購買率が悪く、市民が市内にお金を落としていないことはショックである。

#### 【G委員】

- ・ 若い世代の定住促進に向けた賃貸住宅支援など、要望したい内容や想定しなかった良い施策がたくさんあるが、どのように優劣をつけるのか。ニーズや意見は世代や人によって違う。

#### 【H委員】

- ・ 北広島市にゆかりのある3偉人、中山久蔵、和田郁次郎、クラーク博士をシンボリックに挙げ、チャレンジ精神をうたうのは非常にユニークである。

#### 【I委員】

- ・ 5月の全道の有効求人倍率は0.88倍。北広島市は1.07倍。江別市は0.5倍台。北広島市は求人はあるが、求職者は少ないという状況。
- ・ 全国的に医療・福祉、建設分野で人手不足が2年くらい続いている。また、最近では小売業でも人手不足。観光に伴って、宿泊、飲食も不足という状況も出てきている。
- ・ サービス職は求人はあるが事務職は少ない。パートと正社員ではパートの方が比率が高いなど、単純に良い雇用状況とは言えない。国では正社員化を一つの柱にしている。

#### 【J委員】

- ・ 北海道の人口減少は全国よりも10年早くはじまっているが、北広島市は10年後に始まっているので、大体全国と同じようなスピードである。

- ・ 北広島市の合計特殊出生率（女性が一生に出産する数）は統計上 1.09 で、全道 179 市町村中 176 位。東京（1.11）より低いという状況は意外と地元であまり意識されていない。女性の活躍とか、女性の働き方が話題になるが、女性が安心して子どもを産めるだけでなく、男性の働き方自体を見直すような施策を入れたら、非常に先進的な市の取り組みになる。

#### 【K委員】

- ・ 市内に事務所を構え、製造業あるいは工業製品を扱っている会社で構成されている団体の代表として参加しているので、持ち帰って、何か協力等できればと思う。

#### 【L委員】

- ・ 起業支援も考えられるが、今ある企業を育てることにより雇用する人数が増えていく。道都大学の学生を地元で雇用できるような体制の企業をどんどん作り上げていくのはどうか。
- ・ 北広島団地に若い世代が入ってきてやすいよう、百数十坪の土地などは区割りを見直すなどの抜本的な改革が必要ではないか。
- ・ 市外から人を呼ぶイベントについて「酒まつり」では 50%以上が市外から来てこの地域でお金を落としていくという状況である。市外の方をどんどん集めていくことが必要。

#### 【会長】

- ・ 道都大学は 700 人ぐらいの学生が在籍しているが、北広島市在住は 4 割。そのほとんどは住民票を移していない。選挙権が 18 歳に下がることもあり、地元にもっと目を向けて、地元で仕事をみつけてもらいたい。

#### （４）次回推進会議の日程

8 月 24 日（月）15 時からとする。

#### （５）その他

##### ◎アンケート調査結果報告について

市民を対象とした意識調査結果の速報版を配布。結婚・出産・子育てに関する事、転入転出された方を対象としたもの、札幌市と東京都在住者を対象とした当市の認知度に関する事などの内容である。このほかにも子育て中の母親、小中学生、高校生、大学生を対象とした職業観や居住環境についてのヒアリングも実施しているので整理して後日報告する。

##### ◎次回の会議の進め方

配布資料「重点戦略について」をたたき台として、テーマを絞りながら、意見等を踏まえ深掘りしていく。